

郷土こぼれ話

地域の神様 ⑥ 雀神社（柿沼）

— 四分一芳治さんにお話を伺いました —

雀神社は柿沼地区の神様（うぶすな神）です。

神社の歴史は古く、宝暦2年(1752年)に記された縁起があります。これは、祭神である天鈿女命あめのうずめのみことが登場する神話です。また、ウズメが転じてスズメになったと説かれています。享保3年(1718年)「雀之宮大明神」が正一位に叙せられた記録があり、この時の宗源宣旨(註1)・宗源祝詞・幣帛が今も本殿に納められているそうです。これらのことは、神社西側にある「神徳無窮」(神の恵みを永遠に(註2)の意)の碑にも残されています。

祭神は、天鈿女命すさのおのみこと、素戔嗚尊、菅原道真です。明治42年、雀宮大明神・八坂大神・天満大神が合祀され、同年拝殿の改修が行われました。合祀に関わる改修だと考えられます。

また、ウズメには、オスメドリ（護田鳥）の意味があります。雀神社は農作物の豊作を祈る神様だといえます。天神様と言われる菅原道真の天神（雷神）も、稲作の神様、学問の神様として御利益が伝えられています。祭日は年4回です。春の日待祭は五穀豊作・氏子繁栄を願って執り行われます。夏のお祭りは八坂大神の祭りで、悪疫退散・村中安穏を祈ります。秋の日待祭は五穀豊穰・万民豊楽を祈り、そして元旦祭では新年祝賀と初詣を行います。

雀神社の祭事は、氏子から集められる燈明料から支出されます。7地区から3年任期の総代が選出され、併せて1～2人の用掛（1年任期）が選ばれます。この役員によって運営されます。

雀神社には、多くの言い伝えがあります。氏子は雀を大切にし、捕

らえたりあやめたりしないとされていたそうです。人々が雀様に親しみを持っていた証だと言えるでしょう。戦争前には、小学生によるお神楽が行われていたそうです。県道が舗装された5～60年前、幟立が県道近くにありました。その前にあった大きな自然石の上に子どもたちが上がって、トラック等が通ったとき揺れを楽しんだのを思い出します。団塊の世代が子どもの頃には、子どもたちの良い遊び場でした。



— 雀神社（柿沼） —

柿沼には、天神山という地区があります。しかし、小学こゑさではないそうです。合祀された「天神社」があった場所が天神山となった

のではないのでしょうか。

また、古くは「現在の熊谷市」に「雀宮神社」が3社あったと言われています。現在残っているのが雀神社（雀宮神社）であり、社は現存しないがその土地の名前として残ったのが、肥塚の雀宮だそうです。

幡羅郡柿沼村総鎮守として、古くからこの地に鎮座まします雀神社は、柿沼の地を鎮め人々の生活を、そして人々を護ってきてくださいました。私たちは、これからも雀様を大切にお祀りしていくことが肝心だと思います。

※註1「宗源宣旨」＝諸社に授けられた神階、社格、神号などの文書

※註2「神徳無窮の碑」＝石碑に漢文で書かれている。四分一芳治さんは、パソコンで書き写し、現代語訳をされました。

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより 平成28年 8月号